



三二本語

207 の言葉。何でも言える。

言葉	4
人 <small>ひと</small> と誰 <small>だれ</small>	4
物 <small>もの</small> と食 <small>た</small> べ物 <small>もの</small>	4
外 <small>そと</small> の物 <small>もの</small>	5
動物 <small>どうぶつ</small>	7
体 <small>からだ</small>	7
する事 <small>こと</small>	8
どんな	12
色 <small>いろ</small>	14
心 <small>こころ</small> と感 <small>かん</small> じ	14
言う事 <small>こと</small>	15
時 <small>とき</small>	16
所 <small>ところ</small> と上 <small>うえ</small> 下 <small>した</small>	16
一 <small>ひと</small> つにする言 <small>こと</small> 葉 <small>ば</small>	17
はいといいえ	19
いくつ	20
言葉の道	21
言 <small>こと</small> 葉 <small>ば</small> の形 <small>かたち</small>	21
する事 <small>こと</small> の形 <small>かたち</small>	22
ますとです	23
一 <small>ひと</small> つにする言 <small>こと</small> 葉 <small>ば</small>	24
どんな	26
物 <small>もの</small> にする	27
思 <small>おも</small> うと「もし」	28
聞 <small>き</small> き方 <small>かた</small>	30
いくつ	31
読み物	33
話 <small>はな</small> し	33
毎 <small>まい</small> 日 <small>にち</small> の話 <small>はな</small> し	33
体 <small>からだ</small> と助 <small>たす</small> ける	35
所 <small>ところ</small> で話 <small>はな</small> す	36
人 <small>ひと</small> と人 <small>ひと</small>	38
考 <small>かんが</small> える話 <small>はな</small> し	40
長 <small>なが</small> くない話 <small>はな</small> し	44

すこ	こと	ば	
少	し	の	言葉
		 49
	そと	もの	
	外	の	物
		 49
	まい	にち	
	毎	日	
		 50
	こころ		
	心		
		 51
	とき	か	
	時	の	変わり
		 53
	ひと	ひと	
	人	と	人
		 53
	い	し	
	生	き	ると
			死ぬ
		 54
	ひかり	ひかり	
	光	と	光
			がない
		 55
	こと	ば	
	言	葉	
		 56

言葉

ひと だれ 人と誰

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
ひと 人	かんが こと 考える事ができ る生き物	あの人は誰？
わたし 私	いま い ひと 今言っている人	私は人だ。
あなた	き ひと 聞いている人	あなたは誰？
だれ 誰	どの人かを聞く ことば 言葉	誰が来る？
おとこ 男	ちち ひと 父になれる人	あの男は大きい。
おんな 女	はは ひと 母になれる人	あの女は母だ。
こども 子供	まだ大きい ひと 人	子供は外で走る。
はは 母	こども つく おんな 子供を作った女 の人	母は食べ物を作る。
ちち 父	こども つく おとこ 子供を作った男 の人	父は山に行く。

もの た もの 物と食べ物

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
もの 物	め み なに 目で見える何か	この物は何だ？

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
こと 事	め み なに 目で見えない何 か。する事や考 え。	こと ひつよう その事は必要だ。
なに 何	し 知らないものを き ことば 聞く言葉	なに た 何を食べる？
ふく 服	からだ き もの 体に着る物	あたら ふく き 新しい服を着る。
ほん 本	ことば か もの 言葉を書いた物。 よ もの 読む物。	ほん よ 本を読む。
かね お金	これ もの か これで物を買え る	かね た もの か お金で食べ物を買う。
にく 肉	どうぶつ からだ た 動物の体の食べ るもの	にく た 肉を食べる。
たまご 卵	とり どうぶつ こども 鳥や動物の子供 がはじ もの が始まる物	たまご た 卵を食べる。

そと もの 外の物

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
いし 石	つち で おも 土から出る重い もの 物	みち いし 道に石がある。
き 木	つち うえ おお 土から上に大き くなる生き物	やま き 山に木がある。
つち 土	そと した 外の下にあるも の。草と木はこ こから出る。	つち なか くさ 土の中に草がある。
みず 水	の うみ 飲むもの。海と あめ 雨はこれ。	みず の 水を飲む。

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
ひ 火	あつ 明 暑くて明るいもの	ひ 暑い。 火は暑い。
かぜ 風	そと うご 外で動くもの。 かん 感じるけど見え ない。	そと かぜ つよ 外は風が強い。
たいよう 太陽	そら おお 空にある大きい ひかり にち で 光。日に出る。	たいよう そら 太陽は空にある。
ひかり 光	あか め み 明るくて目に見 えるもの	たいよう ひかり み 太陽の光が見える。
つき 月	よる そら あか 夜の空にある明 るい物	よる つき み 夜、月が見える。
そら 空	うえ み み 上を見ると見え るところ	そら あお 空が青い。
やま 山	つち いし 土と石でとても たか 高くなったところ	やま い 山に行く。
うみ 海	とても おお みず 多くの水 があるところ	うみ おお 海はとても大きい。
あめ 雨	そら した く 空から下に来る みず 水	あめ にち そと い 雨の日は外に行かない。
くさ 草	つち で ちい 土から出る小さ い緑の生き物	くさ みどり 草が緑だ。
くも 雲	そら しろ みず 空にある白い水 のもの	そら くも 空に雲がある。

どうぶつ 動物

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
どうぶつ 動物	うご ける い もの 動ける生き物。 ひと 人でないもの。	どうぶつ す 動物が好きだ。
さかな 魚	みず なか い 水の中で生きる どうぶつ 動物	うみ さかな 海に魚がいる。
とり 鳥	そら と どうぶつ 空を飛ぶ動物	とり そら と 鳥が空を飛ぶ。
いぬ 犬	ひと い どうぶつ 人と生きる動物。 いえ 家にいる。	いぬ いえ 犬が家にいる。

からだ 体

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
からだ 体	ひと どうぶつ ぜんぶ 人や動物の全部	からだ つよ 体が強い。
あたま 頭	からだ いちばんうえ 体の一番上。 かんが 考えるところ。	あたま かんが 頭で考える。
て 手	もの も 物を持つところ	て もの も 手で物を持つ。
あし 足	い とき つか 行く時に使うと ころ	あし うご 足で動く。
め 目	み るところ 見るところ	め み 目で見る。
くち 口	た い 食べると言う ところ	くち た 口で食べる。
みみ 耳	き るところ 聞るところ	みみ き 耳で聞く。
はな 鼻	かぜ はい 風が入るところ。 くち うえ 口の上にある。	はな かぜ はい 鼻から風が入る。

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
こころ 心	かん 感じる ところ。 す 好きや悲しいは ここ。	こころ あたた ひと 心が温かい人だ。
は 歯	くち なか しろ 口の中にある白 いもの。食べ物 を切る。	は た もの き 歯で食べ物を切る。
ち 血	からだ なか うご あか 体の中を動く赤 い水	て ち で 手から血が出る。
ほね 骨	からだ なか つよ 体の中にある強 い物。体を立た せる。	ほね つよ 骨が強い。
はら 腹	からだ まえ なか 体の前の中の ところ。食べ物が入 る。	はら た もの 腹に食べ物がない。
かみ 髪	あたま うえ なが 頭の上にある長 いもの	かみ なが 髪が長い。
かわ 皮	からだ そと 体の外にあるも の。服の下のも の。	かわ あか 皮が赤い。

こと する事

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
する	なに こと 何かをする事	なに 何をする？
いる	い もの 生き物がここに ある事	どうぶつ やま 動物が山にいる。

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
ある	もの 物がここに ある こと 事	ほん いえ 本が家に ある。
なる	ほか か 他のもの に変わ ること 事	おお 大きくな る。
おこる	あたら こと はじ 新しい事 が始ま ること 事	わる こと お 悪い事 が起こる。
いく	ここから そこに 動く事	やま い 山に 行く。
くる	そこから ここに 動く事	ひと いえ く 人が家 に来る。
うごく	ひと 一つの ところに いない こと 事	どうぶつ うごく 動物が 動く。
はい入る	そと なか い 外から 中に行 くこと 事	いえ はい 家に 入る。
で出る	なか そと い 中から 外に行 くこと 事	いえ から で 家から 出る。
とめる	うごく ものを 動か なくす る	うごく と 動きを 止める。
つくる	ないもの をあた らしく する	た もの つく 食べ物 を作る。
つか使う	もの なに 物で何 かをし ること 事	もの つか 物を使 う。
きる	ひと 一つの ものを ふた つにし る	き き 木を 切る。
た食べる	くち もの からだ 口から 物を体 の中 に入れ る	よる た 夜に 食べる。

ことば 言葉 の 飲む	なに こと 何の事 みず 水のようなもの くち からだ い を口から体に入 れる	つか かた 使い方 みず の 水を飲む。
ね 寝る	め し からだ 目を閉めて体 をと 止める。夜にす る。	よる ね 夜に寝る。
きる 着る	ふく からだ つか 服を体 に使う	ふく き 服を着る。
すわ 座る	た からだ 立たないで体 をした 下にする	いえ すわ 家で座る。
たつ 立つ	あし うえ こと 足で上 にいる事	そと た 外で立つ。
いきる 生きる	し こと 死んでいない 事	どうぶつ みず い 動物は水で 生きる。
しぬ 死ぬ	い お 生きるが 終わる 事	くさ し 草が死ぬ。
はじ 始まる	あたら で こと 新しく出 る事。 まえ 前にはな かった。	にち はじ 日が始 まる。
お 終わる	もうない こと はじ 事。始 まったもの が止 まる。	にち お 日が終 わる。
あ 開く	し 閉まったもの なか み こと 中が見 える事	め あ 目が開 く。
し 閉める	あ 開いたもの を開 かなく する	め し 目を閉 める。
か 変わる	まえ ちが 前と違 うもの に なる	そら いろ か 空の色 が変 わる。
あた 与える	わたし もの ほか ひと 私 の物を 他の 人の もの にする	どうぶつ た もの あた 動物 に食 べ物 を 与 える。
もら もらう	ほか ひと わたし もの 他の 人が 私 に物 を 与 える 事	ひと ほん 人 から 本 を も ら う。

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
も 持つ	て 物の 手にある事	ほん も 本を持つ。
あ 会う	ほか ひと 他の人のところ に行って一つに なる	ひと あ 人に会う。
ま 待つ	なに く 何か来るまで うご こと 動かない事	ひと ま 人を待つ。
たす 助ける	できない ひと 人のため にすること	ひと たす 人を助ける。
まも 守る	わる ひと 悪いものから人 や物を助ける	こども まも 子供を守る。
たたか 戦う	ほか からだ 他のものと体で つよ こと 強い事をする	ひつよう もの たたか 必要な物のために戦う。
えら 選ぶ	おお なか 多いものの中か らひと 一つにする	た もの えら 食べ物を選ぶ。
さが 探す	ほ 欲しいものがど こかを見 る	みち さが 道を探す。
か 買う	かね もの お金で物をも ら う	た もの か 食べ物を買う。
い 言う	くち ことば だ 口から言葉を出 す	なまえ い 名前を言う。
か 書く	て ことば つく 手で言葉を作 る	ほん か 本に書く。
よ 読む	か め 書いたものを目 で見し て知る	ほん よ 本を読む。
おし 教える	ひと し こと 人が知らない事 をい 言う	ひと ことば おし 人に言葉を教える。
かんが 考える	あたま なか こと 頭の中で事 をす る	こと かんが 事を考える。

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
わら 笑う	たの とき くち 楽しい時に口で する事	ひと わら 人と笑う。
な 泣く	かな とき め 悲しい時に目か ら水が出る事	こども な 子供が泣く。
できる	こと が と する事が止まら ない	これはひと でできる。
わかる	き こと み 聞いた事や見た 事(こと)が頭(なか)の中で知 れる事	このことばがわ からない。
はな 話す	ひと こと ば い 人と言葉を言う 事(こと)。聞く事もす る。	ひと はな す 人と話すのが好きだ。
ある 歩く	あし うご こと はや 足で動く事。速 くない。	いえまで ある 家まで歩く。
と 飛ぶ	そら なか うご こと 空の中を動く事	とり と 鳥が飛ぶ。

どんな

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
あつ 暑い	ひ かん 火のような感じ。 さむ 寒くない。	そと あつ 外は暑い。
さむ 寒い	あつ かん 暑くない感じ	そと さむ 外は寒い。
よい 良い	す かん わる 好きな感じ。悪 くない。	このほんがよ い。
わる 悪い	よ かん 良くない。好き でない感じ。	そら わる 空が悪い。

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
おお 大きい	おお 多くのところを つか 使う	あま おお あの山は大きい。
なが 長い	はじめからお 終わり までがおお 大きい	みち なが この道は長い。
たか 高い	した うえ おお 下から上まで大 きい	おお いえ たか この大きい家は高い。
おも 重い	も つよ 持つのに強くな いとできない	いし おも この石は重い。
へん 変	ほか ちが 他のものと違う。 し 知らない感じ。	おと へん この音は変だ。
きれい きれい	み よ かん 見て良い感じ	このやま はきれいだ。
つよ 強い	おお 大きなものを動 かせる	ひと つよ あの人は強い。
たの 楽しい	こころ よ かん 心が良い感じ	ひと あ たの 人と会うのは楽しい。
ちが 違う	ふた 二つのが一 つでない	いろ ちが この色は違う。
ほか 他	これでもそれで もないもの	ほか ひと き 他の人に聞く。
あたら 新しい	まえ 前にはなかった。 いま 今できたもの。	あたら ほん か 新しい本を買う。
はや 速い	すこ ととき おお 少しの時に多く うご 動ける	どうぶつ はや あの動物は速い。
おお 多い	すこ 少しでない	ここは ひと おお ここは人が多い。
ほんとう 本当	あること 事がある事。 か 変わらない。	ほんとう 本当か？
ちい 小さい	すこ ところ 少しの所だけを つか 使う	このいし ちい この石は小さい。

ことば
言葉
おなじ

なに こと
何の事
ふたつのものが一
つのようにある
こと
事

つか かた
使い方
わたしとあなたは同じ物を食べた。

いろ 色

ことば
言葉

なに こと
何の事

つか かた
使い方

いろ
色

め み ちが
目で見える違い

この空の色はきれいだ。

しろ
白

ひかり いろ
光の色

この石は白い。

くろ
黒

ひかり いろ
光がない色

その空は黒い。

あか
赤

ひ いろ
火の色

火は赤い。

あお
青

そら いろ
空の色

空は青い。

きいろ
黄色

ひかり いろ
光のような明るい色

この光は黄色い。

みどり
緑

くさ いろ
草の色

草は緑だ。

あか
明るい

ひかり おお
光が多い

外は明るい。

こころ かん 心と感じ

ことば
言葉

なに こと
何の事

つか かた
使い方

し
知る

あたま なか こと
頭の中にある事

その名前を知っている。

かん
感じる

からだ こころ なに
体や心で何か
をしる

風を感じる。

み
見る

め つか こと
目を使う事

空を見る。

き
聞く

みみ つか こと
耳を使う事

音を聞く。

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
おも 思う	こころ なか かんが 心の中で考 える	それはよ いと おも う。 それは良いと思う。
ほ 欲しい	それをもちたい かん 感じ	あた ほん ほ 新しい本が欲しい。
ひつよう 必要	ないと悪い事に なる	みず ひつよう 水は必要だ。
す 好き	こころ よ 心が良くなるも の	どうぶつ す 動物が好きだ。
こわ 怖い	わる こと く 悪い事が来ると おも かん 思う感じ	その はなし こわ 話は怖い。
かな 悲しい	こころ おも かん 心が重い感じ。 な 泣きたい。	その はなし かな 話は悲しい。
おこ 怒る	わる こと 悪い事があって こころ つよ 心が強くなる	ちち おこ 父が怒る。

い こと 言う事

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
ことば 言葉	ひと い 人が言うもの。 くち で おと 口から出る音。	このことば わ 言葉が分からない。
なまえ 名前	ひと もの こと 人や物だけの言 ば 葉	あなたのなまえ おし 名前を教えてください。 さい。
おと 音	みみ き 耳で聞くもの	へん おと き 変な音を聞く。

とき

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
とき 時	まえ いま いま 前から今、今か ら あと までの事	た とき て つかう 食べる時、手を使う。
いま 今	この時	いま た 今、食べる。
まえ 前	いま まえ とき 今より前の時	た まえ みず の 食べる前に水を飲む。
あと 後	いま あと とき 今より後の時	た あと いえ い 食べた後、家に行く。
まい 毎	ぜんぶ とき 全部の時。いつ も。	まいにちみず の 毎日水を飲む。
にち 日	たいよう で 太陽が出てから よる とき 夜までの時	よ にち 良い日だ。
とし 年	とても なが とき とても長い時	あたら とし はじ 新しい年が始まる。
よる 夜	たいよう なが 太陽がなくて明 るくない時	よる そら つき み 夜、空に月が見える。

ところ うえした 所と上下

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
くに 国	おお ひと ひと 多くの人があつ になって いる 生きる おお ところ 大きい所	くに おお この国は大きい。
ところ 所	ひと もの 人や物がいると ころ。ここ、そ こ、どここの事。	ところ さが いい所を探す。
いえ 家	ひと なか い 人が中で生きる ところ	わたし いえ おお 私の家は大きい。

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
みち 道	ひと いなが 人が行く長いと ころ	みち い 道を行く。
なか 中	そと 外でないところ	いえ なか もの 家の中に物がある。
そと 外	いえ なか 家の中でないと ころ	そと い 外に行く。
うえ 上	たか 高いところ	やま うえ ひと 山の上に人がいる。
した 下	うえ 上でないところ	き した なに 木の下に何かある。
みぎ 右	ひだり 左でないところ	みぎ おお いえ 右に大きい家がある。
ひだり 左	みぎ 右でないところ	ひだり やま 左に山がある。
ちか 近い	ここからそこま でおお でが大きい	やま いえ ちか 山は家から近い。
とお 遠い	ここからそこま でおお でがとても大き い。近くない。	うみ とお 海は遠い。
ここ	わたし 私がいるところ	ここにすわ ってください。
そこ	ちか 近いけどここで ないところ	そこになに がある？
どこ	どのところかを き 聞く言葉	うみ 海はどこ？

ひと ことば 一つにする言葉

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
ぜんぶ 全部	ひと 一つもないもの がない	ぜんぶ た 全部食べた。

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
と	ふた ひと 二つのものを一 つにする言葉	みず た もの 水と食べ物をご覧ください。
または	ひと ひと 一つかもう一つ	みず の もの 水または飲み物をご覧ください。
でも	まえ こと ちが こと 前の事と違う事 を言う時の言葉	ちい つよ 小さい。でも強い。
から	はじ 始まるどころ。 なぜかを言う時 の言葉。	さむ いえ 寒いから、家にいる。
まで	お 終わるところ	よる ま 夜まで待つ。
なら	もしそうだった らの言葉	とき そと い 時があるなら、外に行く。
だけ	ほか 他にはない。そ れ一つ。	みず の 水だけ飲む。
も	ほか それと他にもう 一つある事	わたし い 私も行く。
もっと	いま おお 今より多く	もっと た もっと食べたい。
もう	まえ お 前にそれが終 わった事	もう た もう食べた。
まだ	いま こと か 今もその事が変 わっていない	まだ た まだ食べていない。
とても	おお つよ 多く。強く。	この た もの この食べ物はとても良い。
すこ 少し	おお 多くない	すこ ま 少し待ってください。
かた 方	どうするか かたち こと あと 形。する事の後 に付ける。	た かた おし 食べ方を教えてください。
たぶん	ほんとう し 本当かどうか知 らないけど、そ	たぶん あめ く たぶん雨が来る。

ことば
言葉

なに こと
何の事

つか かた
使い方

うだ^{おも}と^{とき}思^ひう^{ひと}時^きの
ことば
言葉

はいといいえ

ことば
言葉

なに こと
何の事

つか かた
使い方

すみません

わる^{こと}悪い^{とき}事^{ひと}をした^き時^き
に^い言う^{ひと}。人^きに^き聞^き
く^{まえ}前^{つか}にも^{つか}使^{つか}う。

すみません、道^{みち}を^{おし}教^{おし}えて^てく
ださい。

ありがとう

よい^{こと}事^{こと}を^{もら}ら^っつ
た^{とき}時^いに^{こと}言^{こと}う^{こと}言^{こと}葉^{こと}

ありがとう。助^{たす}か^{たす}った。

ください

ほ^{ひと}しい^{ひと}もの^{ひと}を^{ひと}人^{ひと}
に^い言^{こと}う^{こと}時^{こと}の^{こと}言^{こと}葉^{こと}

みず^{みず}水^{みず}を^{みず}く^{みず}だ^{みず}さい。

はい

ほん^{ほん}とう^{とう}だ^いと^{とき}言^{こと}う^{こと}時^{こと}
の^{こと}言^{こと}葉^{こと}

はい、わ^わか^わった。

ない

い^{ない}ない^{なに}。ゼ^{なに}ロ^{なに}。
そ^{なに}こ^{なに}に^{なに}何^{なに}も^{なに}な^{なに}い^{なに}
こ^{こと}事^{こと}。

かね^{かね}お^{かね}金^{かね}が^{かね}な^{かね}い。

どう

ど^どの^どよ^どう^どに^どか^どを^ど
き^{こと}聞^{こと}く^{こと}言^{こと}葉^{こと}

これ^{これ}は^{これ}ど^どう^ど使^{つか}う^{つか}？

いいえ

ほん^{ほん}とう^{とう}で^いな^{とき}い^{とき}時^{こと}に^{こと}
言^{こと}う^{こと}言^{こと}葉^{こと}

いいえ、ほ^ほしく^ほな^ほい。

いつ

ど^どの^ど時^{とき}か^きを^き聞^き
く^{こと}言^{こと}葉^{こと}

いつ^{いつ}来^くる^く？

なぜ

なに^{なに}か^から^かか^きを^き聞^き
く^{こと}言^{こと}葉^{こと}

なぜ^い行^いか^いない^い？

これ

こ^ここ^こに^こあ^ある^るも^もの^の

これ^{なん}は^{なん}何^{なん}だ^だ？

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
それ	そこにあるもの	それをください。
この	ここにあるもの の	この本は良い。
その	そこにあるもの の	その食べ物は何だ？

いくつ

いくつは二つの読み方がある。4=し/よん、7=しち/なな、9=く/きゅう。話す時はよん、なな、きゅうが多い。大きいいくつの作り方: 二+十=20、三+百=300。

ことば 言葉	なに こと 何の事	つか かた 使い方
いち 一	ひと 一つだけ	ひと 一人で山に行った。
に 二	いち いち 一と一	て ふた 手は二つある。
さん 三	に いち 二と一	さんにん こども 三人の子供がいる。
よん 四	さん いち 三と一	いぬ あし よん 犬の足は四つだ。
ご 五	さん に 三と二	ごにん ひと き 五人の人が来た。
ろく 六	ご いち 五と一	ろくがつ あめ おお 六月は雨が多い。
なな 七	ご に 五と二	なな いろ そら で 七つの色が空に出た。
はち 八	ご さん 五と三	はちがつ あつ 八月はとても暑い。
きゅう 九	じゅう いち 十から一をなく したもの	くじ ね 九時に寝る。
じゅう 十	ご ご 五と五	じゅうにん た 十人で食べた。
ひゃく 百	じゅう じゅう 十が十	みず ひゃく ごじゅう 水は百五十だ。

言葉の道

ことば かたち 言葉の形

ことば く ところ 言葉の来る所

所ところを作つくって、それからする事こと。[誰だれ][いつ][どこ][何なに]→[する事こと]。する事ことがいつも終おわりに来くる。一つにする言葉ことばがどこに何なにが来くるか見みせる。

わたし ほん よ
私わたしは本ほんを讀よむ。

わたし ひと
私わたしは人ひとだ。

い こと 言わない事

知しっている事ことは言いわない。誰だれが、何なにを - 知しるなら言いわなくていい。これがいつもことの事こと。

なに の みず
「何なにを飲のむ？」「水みず。」

ある / いる

ある事ことは持もつ事ことと一ひとつ。「持もつ」のする事ことはない。生いき物ものはいる、他ほかは全部ぜんぶある。

どうぶつ
動物どうぶつがいる。

ほん
本ほんがある。

わたし ほん
私わたしは本ほんがある。

すること かたち する事の形

よつ かた 四つの方

よつのかたのやり方がある。これは言葉を変えるもの。る = 今と後。た = 前、終わった事。ない = しない。なかった = 前にしなかった。全部この四つの上を作る。

食べる → 食べた → 食べない → 食べなかった

行く → 行った → 行かない → 行かなかった

する → した → しない → しなかった

来る → 来た → 来ない → 来なかった

かた ての方

する事を本当に起こる方で一つにする。「と」「で」「のために」はいらない。- する事をそのまま言う。時は終わりだけ。く → いて、む → んで、つ → って、る → て。

書く → 書いて

飲む → 飲んで

待つ → 待って

食べる → 食べて

書いて読んで寝た。

て + もっと

ての方にもっとたす。欲しい事 + ください、今している + いる、していい + もいい、してはいけない + はいけない。

待ってください。

今読んでいます。

座ってもいい？

はい
入ってはいけない。

られる / える

できる事。る-のする事: るをなくして、られるを足す。他: えの方+る。
する → できる。

か
書く → 書ける

み
見る → 見られる

する → できる

ないでください

しないでほしい事を言う。する事のない方+で+ください。

はい
入らないでください。

て
手で持たないでください。

ますとです

ます / です

よく知らない人と話す時はますを使う。する事の始め+ます。だ → です。
いつも同じ方で変わる。ます / ました / ません / ませんでした。

みず の
水を飲みます。

やま い
山に行きました。

さかな た
魚を食べません。

この本は良いです。

いつますを使うか

知らない人にはますを使う。買う所の人、教える人、他の人に使う。家の人と好きな人にはるの方でいい。ますは人への良い気持ちを見せる。使わないと子供のように聞こえる。

買う所で: これをください。いくらですか。

好きな人に: これ、いくら？

寒いです。

ひとつにする言葉

は

「この事は…」と所を作る。言葉の入れる所の一つ目。何の事かを見せる。

この本は良い。

私は目が良い。

が

する人。誰がそれをするか。新しい事。

誰が来る？

を

何にする事をするか。[何]の入れる所。

水を飲む。

に

どこに^い行く。いつ。どこに^いいる。[いつ]と[どこ]の^い入れる^{ところ}所。

やま^い
山に^い行く。

よる^ね
夜に^ね寝る。

いえ^{どうぶつ}
家に^{どうぶつ}動物が^いいる。

で

どこ^でです。何^{なに}を^{つか}使って^{する}する。に^は物^{もの}が^いいる^{ところ}ところ、^では^{する}事^{こと}の^{ところ}ところ。

いえ^よ
家^でに^よ読む。

て^か
手^でに^か書く。

の

もの^{もの}と^{ひと}物^{ひと}を^{ひとつ}一つにする。する^{こと}事^{もの}を^{もの}物^{もの}にも^{する}する(五^ごを^み見る)。

わたし^{ほん}
私^の本^を。

やま^{うえ}
山^の上^を。

と

「と」^{ひと}で^{ひとつ}一つにする。言^いった^{こと}事^かを^か書く。言^いう^{こと}事^{おも}、思^{おも}う^{こと}事^{おと}、音^{おと}、名^な前^{まえ}。

みず^{ほん}^か
水^と本^を買^かった。

「^い行く^い」^と言^いった。

も

「も」^{ひと}で^{ひとつ}一つ。は、が、を^のの^{ところ}所^{つか}に^{つか}使う。

ちち^{ほん}^よ
父^は本^を読^よむ。母^もも^よ読^よむ。

から / まで

始^{はじ}まる^{ところ} (から)、終^おわ^{るところ} (まで)。から はなぜか^いも言^える。

家^{いえ}から 山^{やま}まで 行^いく。

夜^{よる}まで 待^まつ。

寒^{さむ}いから、家^{いえ}に^いる。

より

Xより = 「Xよりもっと」。この一^{ひと}つ^{ことば}の言^{げん}葉^ぶで全部^{ぜんぶ}。

山^{やま}より 大^{おお}きい。

水^{みず}より 食^たべ^{もの}が 好^すきだ。

どんな

い^{ことば}の言^{ことば}葉^{ひと}

する事^{こと}と一^{ひと}つ。寒^{さむ}い^{だけ}で言^{ことば}葉^おが終^かわ^る。変^かえる: くない、かつた、くて。だはいらない。

寒^{さむ}い。

寒^{さむ}くない。

寒^{さむ}かつた。

寒^{さむ}くて 悲^{かな}しい。

な^{ことば}の言^{ことば}葉^{ひと}

物^{もの}の前^{まえ}にな^なを足^たす。じやない(違^{ちが}う)、だつた(前^{まえ})。

必^{ひつ}要^{よう}な 物^{もの}。

ひつよう
必要じゃない。

ひつよう
必要だった。

ひつよう よ
必要で良い。

～くなる / ～になる

か こと ぜんぶ か かた ひと
変わる事。全部の変わり方がこれ一つ。

あつ あつ
暑い → 暑くなる。

ひつよう ひつよう
必要 → 必要になる。

する事 + 物

こと ことば 物の まえ い み ことばづく つよ
する事や言葉を物の前に入れて、それを見せる。言葉作りの強さ。

やま うご ことも
山で動く子供。

わたし か もの
私買った物。

もの 物にする

の

かた た す き とき なに
いつもの方。食べるのが好き。聞く時にも: 何しているの？

た す
食べるのが好きだ。

なに
何しているの？

こと

こと かんが め み こと うご こと かんが の もの
する事を考えにする。目で見えない事。「動く事」は考え。「飲む物」は
手で持てる。この違いが必要。

動くことは良い。

行くことができる。

必要なことを言う。

もの

手で持てるもの。本当にある何か。「飲むもの」= 飲む何か。「こと」は考え、「もの」は物。

飲むもの。

読むもの。

必要なものを持っている。

方

どうするかの方。する事の始めに足す。食べ方= どう食べるか。使い方= どう使うか。こと・もの・方の三つで全部言える。

食べ方を教えてください。

この言葉の使い方が知りたい。

聞き方が必要だ。

おも 思うと「もし」

たい / 欲しい

する事がしたい(する事の始め + たい)。物が欲しい(欲しい)。

行きたい。

新しい家が欲しい。

たら / なら / ければ

たら = もしそれが起おこったら (した + ら)。なら = もしそうなら。ければ =
いことばの言葉の「もし」(い → ければ)。

あめきが来たら、行いかない。

とききがあるなら、来きてください。

さむいえければ、家いえにいる。

と思う / と言う

とで何なんでも言いえる。思おもう事こと、言いう事こと、音おと。という = 「その名なまえ前の」。

よおもいと思おもう。

「行いく」と言いった。

おおやまきい山やまという所ところ

ために

何なにのためにするか。する事こと+たために か 物もの+のたために。

しよるたために読よむ。

こどものたために。

う / よう / ましょう

ふたなにりで何なにかをする事ことを言いう。行いこう = 一ひとつに行いく。食たべましょう = 一ひとつに
食たべる。する事ことの始はじめ + ましょうう。

食たべましょうう。

ふたいりで行いきましょうう。

なくてはいけない / なきゃ

なくてはいけない^{こと}事。ない → なくてはいけない。話す^{はな}時^{とき}は なきゃ だけでいい。

みず^の水を飲まな^なきゃ。

まい^{にちある}毎日歩かなくては^ないけない。

ほうがいい

した^{ほう}方が^よいい = する^よのが^よいい。しない^{ほう}方が^よいい = しない^よのが^よいい。

みず^の水を飲^のんだ^{ほう}ほうが^いいい。

行^いかない^{ほう}ほうが^いいい。

きかた 聞き方

か / ね / よ

聞^きく / そう^でしょう^か? / 強^{つよ}く^い言^う。いつ^もの^こ事^とでは^かを^い言^わない^こ事^も多^おい。

これは^{みず}水^か?

良^よい^{にち}日^だね。

行^いく^よ。

なに だれ 何・誰・どこ・いつ・なぜ + も / でも

聞^きく^こ言^ごば^い言^こう^こ事^との^いと^ころ^に入^いれ^る。+も(ない) = 何^{なに}も^ない。+でも = 何^{なん}でも。5つの^こ言^ごば^い + 2つの^つな^ぎ = 20の^こ言^ごば^いが^つく^れる。

何^{なに}を^た食^たべる? → 何^{なに}も^た食^たべ^ない。

何^{なん}でも^つく^れる。

だれ
誰もいない。

だれ
誰でもできる。

いくつ

つ(いくつ)

物のいくつか言う時につを使う。読み方が全部変わる: 1=一つ 2=二つ 3=三つ 4=四つ 5=五つ 6=六つ 7=七つ 8=八つ 9=九つ。10=十(つがない!)。十より上はいくつだけ。

たまご みつ
卵を三つください。

さかな ふた たまご いつ
魚を二つと卵を五つください。

たまご やつ か
卵を八つ買った。

たまご とお ぜんぶ た
卵が十ある。全部食べた。

いくつの作り方

いくつの前に十か百を入れる。二十=20。三百=300。全部一つにする: 三百五十二=352。百の前で音が変わる事がある。

にじゅうにん ひと き
二十人の人が来た。

これはさんびやくごじゅうにです。

いくつの読み方

いつも同じ読み方: いち(1)に(2)さん(3)ご(5)ろく(6)はち(8)じゅう(10)ひやく(100)。三つだけ二つの読み方がある: し/よん(4)しち/なな(7)く/きゅう(9)。分からない時はよん なな きゅうを使う。この三つの方がいつも使える。

しがつ あめ く よじ あ
四月に雨が来る。四時に会う。

しちがつ あつ なな やま み
七月は暑い。七つの山が見える。

くがつ さむ きゅうじ ね
九月から寒くなる。九時に寝る。

さんびゃく ろっぴゃく はっぴゃく
これは三百。それは六百。あれは八百。

読み物

はな 話し

まいにち はな 毎日の話し か ところ 買う所で

- A:** すみません。この食べ物は何ですか。
- B:** これは良い食べ物です。水と草で作りました。
- A:** これをください。他の物もありますか。
- B:** はい。そこに新しい物があります。
- A:** それも見てもいいですか。
- B:** はい。手で持ってください。
- A:** これを買います。ありがとう。
- B:** ありがとう。また来てください。

みち ひと あ 道で人と会う

- A:** あ！どこに行きますか？
- B:** 今は海に行きます。あなたは？
- A:** 私は家に来る。体が少し悪いです。
- B:** 体が悪いですか？水を飲んで、寝てください。
- A:** ありがとう。海の風はとても良いね。
- B:** そうだね。でも今は風が強いです。
- A:** 良く守ってください。また会おう！
- B:** はい、また会おう！

いえ よる た もの 家の夜の食べ物

母: 座すわってください。食たべ物ものができた。

子供: 今いまは何なにを食たべる?

母: 草くさと水みずでつくった。体からだに良よい。

父: とても良よい物ものだね。今いままで体からだがとておもも重おもかった。

子供: 父ちち、今いまの日は楽たのしかったか。

父: まあまあだちちった。でも家いえに来くることがもすっと好すきだ。

母: この物ものを全ぜん部ぶ食たべてください。

子供: はい! とても良よい。あありがあとう、母はは。

みち き 道を聞く

A: すみません。大おおきい大おおきい家いえはどこですか。

B: ここから遠といです。

A: どう行いったらいいですか。

B: この道みちを行いってください。大おおきい木きの前まえで右みぎに入はいってください。

A: 木きの前まえで右みぎだね。その後あとは?

B: 大おおきい家いえを見みることができできます。それです。

A: 歩あるいて行いけますか。

B: はい、歩あるいて行いけます。遠といですが、良よい道みちだ。

A: あありがあとう!

にち はじ 日の始まり

母: もう立たってください! 日にちがで出でている。

子供: まだ目めが重おもい。もう少すこし寝ねたい。

母: いけはない。速はやく服ふくをき着きてください。

子供: はい。でも今いまは空そらが明あかるくあめない。雨くが来くるか。

母: そうだね。外は少し寒いから、良い服を着てください。

子供: 今は何を食べる？

母: 水と食べ物がある。全部食べてください。

子供: はい、母。今日の日も楽しいと思う！

体と助ける 体が悪い時

私: すみません。体が悪いです。

体を助ける人: どこが悪いですか。

私: 頭が悪い感じですか。体も暑いです。

体を助ける人: いつから悪いですか。

私: 前の日からです。夜も寝られませんでした。

体を助ける人: 口を開けてください。体を見ます。

体を助ける人: 体を良くする物を飲んでください。よく寝てください。

体を助ける人: 三つの日の後に良くならないなら、また来てください。

私: 分かりました。ありがとうございます。

体を良くする物を買う

私: すみません。体を良くする物が欲しいです。

店の人: どこが悪いですか。

私: 腹が悪い感じですか。食べた後に悪くなります。

店の人: 食べ物で体が悪くなる事がありますか。

私: いいえ、ないです。

みせ ひと よ おも まいにち た あと ひと の
店の人: これが良いと思います。毎日、食べた後に一つ飲んでくださ
い。

わたし わ
私: 分かりました。いくらですか。

みせ ひと ごひやく よ からだ たす ひと あ
店の人: 五百です。良くならないなら、体を助ける人に会ってくださ
い。

たす 助けてください

A: すみません！助けてください！

B: どうしましたか。

A: あの人が下に行きました。足が悪いと思います。動けません。

B: どこですか。

A: あの大きい家の前です。道の上にあります。

B: 分かりました。助ける人に言います。待ってください。

A: ありがとうございます。あの人の近くにいてください。

B: はい。水を与えましょう。体を動かさないでください。

ところ はな 所で話す ひと くもの ま ところ 人が来る物待つ所で

A: すみません。ここから海の人が来る物待つ所まで行きたいです。

ところ ひと に ひやく
所の人: 二百です。

A: 一つください。何つ目の所から出ますか。

ところ ひと みっめ うえ い
所の人: 三つ目です。上に行ってください。

A: いつ来ますか。

ところ ひと じゅうご あと
所の人: 十五の後です。

A: 海の所までどのくらいですか。

ところ ひと にじゅう みつ め ところ で
所の人: 二十ぐらいです。三つ目の所へ出てください。

た ところ 食べる所で

みせ ひと なんにん
店の人: 何人ですか。

A: ふた ひと
二りの人です。

みせ ひと
店の人: どうぞ、こちらに座ってください。

A: すみません。この食べ物の中に何がありますか。

みせ ひと くさ にく からだ わる た もの
店の人: 草と肉です。体が悪くなる食べ物がありますか。

A: はい。たまご からだ わる
卵で体が悪くなります。

みせ ひと わ
店の人: 分かりました。この食べ物には卵は入っていません。

A: では、これをください。

A: すみません。お金を全部ください。

か ところ 買う所で

みせ ひと き
店の人: 来てくれてありがとう。

A: すみません。この食べ物を暑くしてください。

みせ ひと すこ ま い もの ひつよう
店の人: はい。少し待ってください。入れる物は必要ですか。

A: はい、ください。

みせ ひと ほか ほ もの
店の人: 他に欲しい物がありますか。

A: この飲み物もください。

みせ ひと ぜんぶ さんびゃく ごじゅう
店の人: 全部で三百五十です。

A: かね ちい もの よ
お金の小さい物で良いですか。

みせ ひと
店の人: はい。ありがとうございます。

おと い もの ひと い 音で言う物で人に言う

A: もしもし。体からだを助たすける所ところですか。

体からだを助たすける所ところの人ひと: はい。何なにのためですか。

A: 体からだを助たすける人ひとに会あいたいです。いつが良よいですか。

体からだを助たすける所ところの人ひと: 後あとの日にちの十じゅうの時ときはどうですか。

A: 良よいです。私わたしの名前なまえはたなかです。

体からだを助たすける所ところの人ひと: たなかさんですね。後あとの日にちの十じゅうの時ときです。待まっています。

来きた事ことを書かく所ところをする所ところで

A: すみません。ここここに来きた事ことを書かきたいです。

所ところの人ひと: 分わかりました。あなたあなたが誰だれかを見みせる物ものが必ひつ要ようです。

所ところの人ひと: 他ほかの国くにの人ひとなら、国くにに行いく本ほんも必ひつ要ようです。

A: はい。これこれです。どうぞ。

所ところの人ひと: ありがとうございませう。この書かく物ものに名な前まえと家いえの所ところを書かいてください。

A: 書かき方かたが分わかりませう。教おしえてもらえますか。

所ところの人ひと: はい。ここここに名な前まえ。ここここに家いえの所ところを書かいてください。

A: ありがとうございませう。どこどこに出だしますか。

所ところの人ひと: 二ふたつ目めの所ところに持もって行いってください。

人ひとと人ひと 私わたしの事ことを言いう

A: こんにちは。ここここに新あたしく来きました。私わたしはたなかです。

B: こんにちは。私わたしはやまもとです。家いえが近ちかい人ひとです。

A: よろしくください。私わたしは他ほかの国くにから来きました。

B: そうですね。この国の言葉がとても良いですね。

A: ありがとうございます。まだ少しだけです。

B: 何か分からない事があったら、言ってください。

A: ありがとうございます。とても助かります。

もう一つください

A: すみません。今の言葉が分かりませんでした。

B: すみません。もう一つ言いましょうか。

A: はい。もう少し速くなく教えてください。

B: この道を行って、大きい木の前で右です。

A: 道を行って.....右。すみません、書いてもらえますか。

B: はい。ここに書きます。これでわかりますか。

A: はい！書いた物はわかります。ありがとうございます。

家が近い人

A: すみません。この物は今日の外に出してもいいですか。

B: いいえ。今日は違います。

A: そうですね。いつが良いですか。

B: この物は月の日とお金の日にします。

A: 書く物はいつですか。

B: 書く物は水の日です。日の中の前に出してください。

A: 分かりました。ありがとうございます。

B: 分からない事があったら、聞いてください。

空の事の話

A: 今の日は空がとてもきれいですね。

B: そうですね。太陽が出ていて、風も良いです。

A: でも後から雨が来ると聞きました。

B: 本当ですか。雨の物を持った方がいいですね。

A: 今の日は何をしますか。

B: 雨の前に外を歩きたいです。

A: 良いですね。良い日にしましょう。

考える話し 生きるとは何か

A: 石は動かない。草は動く。何が生き物を生きている物にする？

B: 動くだけじゃない。水も動く。火も動く。でもそれは生きていない。

A: じゃあ何だ？生き物には何があって石にはない？

B: 生きる風だ。全部を作った人が生き物に生きる風を与えた。

A: 生きる風？私たちが飲む風と同じ？

B: でも違う風だ。それがないと体は土と水だけだ。

A: 全部の生き物に生きる風がある。でも人は他の生き物と違う？

B: そう。全部を作った人は人をその人に近く作った。だから人は全部の生き物の中でもっとも大きい。

夜の光

A: 夜の空の光は何だと思う？

B: あの光は全部の始まりの時に空に与えられた。

A: 始まりの時に？人より前に？

B: そう。全部ぜんぶを作った人が空と土つちを作った後あとに空そらに光ひかりを与えた。

A: じゃああの光ひかりは光ひかりだけじゃない？

B: 見守る物だ。空そらに与えられた使つかいだ。上うえから私わたしたちを見守みまもっている。

A: 上うえからの使つかい？ 始はじまりの時ときからそこにいる？

B: そう。土つちと海うみが作つくられた時ときから変かわっていない。

A: だから毎夜まいよる変かわらない光ひかりがある。いつも上うえから見守みまもっている。

なぜ人は戦たたかうの？

子供: 父ちちさん、なぜ人は戦たたかうの？ 戦たたかうと悲かなしいことが起おこるのに。

父: そうだね。人は怖こわい時ときに好きな物ものを守まもりたくなる。

子供: でも戦たたかって守まもれるの？ 戦たたかうともっと悲かなしいことが起おこる。

父: 本当ほんとうにそうだ。全部ぜんぶの中なかで一つひとつだけ強つよい守まもり方かたは好すきでいることだ。私わたしを好すきなように他ほかの人も好すきでいること。

子供: でも悪わるい事ことをする人ひとは？ 戦たたかいに来くる人ひとは？

父: その人ひとたちもだ。私わたしに悪わるい事ことをする人ひとも好すきでいる。それが人ひとにできる全部ぜんぶの中なかで一つひとつだけ強つよい事ことだ。

子供: 私わたしに悪わるい事ことをする人ひとを好すきでいるの？ それとはとてもできにくいと思う。

父: できにくい。でも全部ぜんぶを作つくった人ひとがそう言いった。私わたしを好すきなように他ほかの人ひとを好すきでいなさい。悪わるい事ことをする人ひとも。

人ひとだけが持もつ物もの

A: 動物どうぶつも食たべて、飲のんで、子供こどもを守まもる。人ひとと本ほん当とうに違ちがう？

B: 人は書かく。会あったことのない人ひとに言ことば葉あたしを与える。死しんだ後あとも。

A: それは大おおきい。動物どうぶつは今いまに生いきる。人ひとは前まえと後あとに生いきる。

B: 人は動く物も作る。手でできないことを動く物でできるようにする。

A: でも石を使う動物もいる。人だけが物を使うのではない。

B: 物を使うことと、物について考えることは違う。人は見えない事を考える。

A: 見えない事？ どんな事？

B: 「なぜ生きるのか」。動物はこれを聞かない。人だけが聞く。それが良いことが悪いことかは、まだ知らない。

とき 時について

A: この所に来て、多い年が終わった。あの木は前に小さかった。

B: 木は変わった。でも山は変わっていない。時は物によって違う。

A: 私たちも変わった。体が変わった。でも.....心の中はどうだろう。

B: 子供の時に感じた事は、まだ心の中にある。変わっていない。

A: 時は前に動くだけ？ 前に行くことはできない？

B: 体は前に行けない。でも心は行ける。本の中で、目を閉めた中で。

A: それなら時は二つある。体の時と、心の時と。

B: そして私たちが死んだ後も、あなたと私が感じた事は他の人の心の中で生きるかもしれない。

し 知ること

A: 教える人、本を読んだら、その事を知っているとと言えるか。

B: 本の言葉は知ることができる。でも、本当に知ることは違う。

A: どう違うか。

B: 手で作ったり、体で感じたりしたとき、本当に知る事が始まる。

A: では、私はまだ知らないのか。

B: 知りたいとおもっているなら、もうはじまっている。それでよいとおも思う。

A: 知ることは終わるか。

B: 良い教える人も、まだ知らない事がとても多いと感じている。

うみ そと 海の外

A: この海はとても大きいね。外に何があるか。

B: 他の国がある。でも目では見えない。

A: その国の人たちも、この水を見ているとおもるか。

B: はい、全部一つの水だ。海は一つだと思う。

A: 水の中に何がいるか。

B: 動物が多くいる。私たちが知らない動物も、まだいるとおも思う。

A: 海は怖い。

B: 怖い。でも海の音を聞くと、心が良くなる。

A: 私もそう感じる。大きい物の前に立つと、心が小さくなる。

あたらし 新しいものと前のもの

A: この国はとても変わったね。前は違った。

B: はい。新しい大きい家が多くなった。前からある家は少なくなった。

A: 前からある道も変わった。前は木が多かった。

B: 新しいものは良いか、悪いか。

A: 新しい動く物で、人がする事が速くなった。でも前にしていた事を知っている人が少なくなっている。

B: 言葉も変わる。前の人たちの言葉は今もあるか。

A: 本の中にある。でも使う人は少しだけだ。

B: 変わらない事はあるか。

A: 山と海はまだ変わらない。太陽も毎日出る。

おと ころ 音と心

A: あの人が作った音を聞くと、悲しくなる。なぜか。

B: 私もそう感じる。その音は何かを感じさせる。

A: 言葉は使っていない。でも心に入る。

B: 言葉より前に、体が感じると思う。雨の音や風の音も、心を動かす。

A: では、人が作る音と山や海の音は違うか。

B: 違うと思う。人が作る音の中には、その人の心がある。

A: 悲しい音を聞いて、なぜ楽しいと感じるか。変だね。

B: 悲しさを感じていい、と思えるからかもしれない。一りじゃないと感じる。

A: その音を作った人も、その悲しさを知っていたのだね。

なが はな 長くない話し

やま 山

わたしはひとりで山に行った。

道は長くて、石が多かった。

足が重くなった。でも止めなかった。

上に行くとき、風が強くなった。

空はとても明るくて、太陽の光が全部の物に入っていた。

私は座って、下の海を見た。

家のことを思った。母のことを思った。

前の年に悪いことが多くあった。

でも今、山の上で、その事は小さくなった。

風が来て、私の体に入った。

私は目を閉めた。

心の中で、何かが変わった。

ふた くに 二つの国

ある国の人は海の近くにいた。

もう一つの国の人は山の中にいた。

海の国の人は水を知っていた。山の国の人は土と木を知っていた。

ある日、一りの男が山から出て、海まで行った。

海で女が水の近くに座っていた。

男は海を見た。怖かった。

女は男の目を見て、笑った。

「怖くないよ」と女は言った。「入ってみて。」

男は少し入った。水はとても寒かった。

二りの言葉は違った。でも笑いは同じだった。

夜、二りは火の近くに座って、食べ物を食べた。

月が空に出ていた。二つの国から見ても、一つの月だ。

おお き 大きい木

山の中に一つの大きい木があった。

その木はとても長い時を生きていた。

木は多くの雨を知っていた。多くの風を感じていた。

子供たちが来て、木の上で楽しんだ。その子供たちは大きくなって、出て行った。

戦いがあった。人たちは木の近くで泣いた。

木は動かなかった。立っているだけだった。

動物たちが木の中に入って、寝た。

草が毎年木の近くに出てきた。そして終わった。

でも木はまだある。

ある日の夜、一りの女が来た。

女は木に手を持って、何も言わなかった。

木も何も言わなかった。でも二つの心は一つになった。

子供の「なぜ」

子供はいつも「なぜ？」と聞いた。

「なぜ空は青いの？」と父に聞いた。

父は「光だよ」と言った。

「なぜ光は青くなるの？」と子供は言った。

父は考えた。「空だよ」と言った。

「なぜ空はそこにあるの？」

父は口を閉めた。

「なぜ私は生きているの？」と子供は言った。

父は子供を見た。

夜になって、二りは外に出た。

空に多くの光があった。

こども
子供は「きれい」と言った。今は「なぜ」を言わなかった。
ちち こと かん わら
父はその事を感じて、笑った。

いぬ とり 犬と鳥

わたし いぬ まいにちそと ある
私の犬は毎日外を歩く。
いまにち みち ある
今日も道を歩いていた。
そら しろ くも
空に白い雲があった。
くも した とり と
その雲の下で、鳥が飛んでいた。
いぬ うえ み うご
犬は上を見て、動かなくなった。
いぬ と おも あし つち うえ
犬は飛びたいと思った。でも足は土の上にある。
とき ちい とり いち き した き
その時、小さい鳥が一つ、木の下に来た。
ちい とり ある と
小さい鳥は歩いていた。飛ばなかった。
いぬ とり おな みち ある
犬と鳥は同じ道を歩いた。
いぬ わ かわ そら と おな ところ い
犬は分かった。空を飛ばなくても、同じ所に行ける。
ふた どうぶつ おな かぜ かん
二つの動物は、同じ風を感じていた。

とお ところ さかな 遠い所の魚

わたし はら た もの
私は腹に食べ物がなかった。
そと で た もの か い
外に出て、食べ物を買に行った。
「すみません。さかなはありますか。」と聞いた。
おとこ ひと い さかな とお うみ き
男の人は言った。「はい、あります。この魚は遠い海から来ま
した。とても良い魚です。」
にく
「肉もありますか。」

「はい。肉と卵もあります。」

わたしは魚と卵を選んだ。

「全部でいくらですか。」

「三百です。」

少し高いと思った。でも遠い所の魚だから。

お金を与えて、家に来た。

魚と卵で食べ物を作った。

腹に食べ物が入って、体が温かくなった。

たぶん後の日も、あの魚を買いに行く。

髪を切る人

髪が長くなった。切る時が来た。

私は歩いて、髪を切る所に行った。

中に入ると、男の人が言った。「どうしますか。」

「髪を切ってください。少しだけ。」

男の人は私の髪を手で持って、見た。

「髪がとても強いですね。」と男の人は話した。

「本当ですか。」

「はい。たぶん骨も強いです。」

私は笑った。「分かりません。でも歯は強いです。」

男の人も笑った。

「頭の皮は良いですか。」

「いいえ、少し赤いです。太陽の光が強かったから。」

男の人はとても良く切った。

お 終わった後、私 の髪は新 しくなった。
かみ き ひと はな たの
髪を切る人と話すのは楽しかった。

すこ こと ば 少しの言葉

そと もの 外の物

やま うえ
山の上
かぜ き
風が来ている
そらあお
空青い

あめ おと
雨の音
そと き
外に聞こえる
よる みち
夜の道

うみ みず
海の水
おお うご
大きく動く
しろ いし
白い石

しろ つき
白い月
みず うえで
水の上出る
よる うみ
夜の海

くも く
雲が来る
とり と
鳥が飛んでる
あめ まえ
雨の前

さかない
魚行く
みず ひか
水で光って
うみ おと
海の音

まいにち
毎日

みず の
水を飲む
たいよう で
太陽が出て
そと み
外を見る

た もの
食べ物を
こども た
子供と食べる
いえ なか
家の中

みち い
道を行く
おお きき み
大きい木見る
かぜ おと
風の音

よる く
夜が来る
つき み
月を見ている
め し
目を閉める

いぬある
犬歩く
おな みち い
同じ道行く
かぜちが
風違う

はら い
腹が言う
さかな た
魚食べたい
うみとお
海遠い

こころ 心

ひと ま
人を待つ
こころ なか
心の中に
いつもいる

たの
楽しくて
こども わら
子供が笑う
おと き
音を聞く

な こども
泣く子供
はは て も
母が手を持つ
ひかり み
光見る

ひと あ
人に会う
ことば すこ
言葉を少し
わら ひと
笑う人

わ
分かりたい
こころ わ
心で分かる
たぶんそう

はな
話したい
ことば とき
言葉ない時
め はな
目が話す

ときか
時の変わり

くさひら
草開く
やまかぜく
山の風来る
くさうご
草動く

そらあつ
空暑い
みずのひと
水を飲む人
にちお
日終わる

きか
木が変わる
あかやま
赤くなる山
かぜさむ
風寒い

さむよる
寒い夜
ひちかひと
火に近い人
おと
音もない

ひとひと
人と人

だれく
誰か来る
しなまえ
知らない名前
わらひと
笑う人

また会^あおう
と言^いった後^{あと}に
道^{みちなが}長い

あなた待^まつ
来^こないと知^しって
まだここ^こに

手^て与^{あた}える
もら^{ひと}う人^めの目^め
光^{ひかり}見^みた

いいえ言^いう
こころ^{こころ}かな
心^{こころ}悲^{かな}しい
それでいい

生きる^いと死^しぬ

始^{はじ}まりの
少^{すこ}しの体^{からだ}
泣^ないている

い
生きること
た うご
食べて動いて
く にち
来る日へ

ひと し
人は死ぬ
つち なかい
土の中入る
くさい
草生きる

お よる
終わる夜
ひかりはじ
光始まる
そら
空はある

しろ かみ
白い髪
ひやくねん い
百年生きて
ほねつよ
骨強い

ひかり ひかり
光と光がない

つき よる
月の夜
ひ ひと
火が一つある
だれ
誰かいる

ひかり く
光 来る
こわ お
怖いの終わる
め ひら
目を開く

ひ と
火を止めて
ひかり
光 なくなる
からだ
体 だけ

よる そら
夜の空
つきしろ で
月白く出る
みちしろ
道白い

ことば
言葉

ことば
言葉ない
こころ うご
心が動く
ひと ひと
人と人

か ことば
書く言葉
だれ よ
誰も読まない
まだそこに

き ことば
聞く言葉
し ことば
知らない言葉
みちひら
道開く

い
言わないで
て も
手を持っている
それでいい



minihongo.com